

項 目 名	暴言、暴行の改善
表 題	オムツ使用からトイレ誘導に切り替えたケース
施 設 名	梅本の里（介護老人福祉施設）

### 1 取り組みを始めた経緯、きっかけ

平成 12 年 2 月 1 日入所、女性、94 歳、食事自立、排泄・入浴全介助、重度の痴呆症状があり、不穏状態になると、暴言・暴力行為又は自分の頭を叩く、鼻をつまむ、身体をつねる等の自傷行為があり、テーブルを何時間も叩く行為が度々あり、他の入所者からの苦情がある。

ベッド上で端座位で座っていたり、サイドレールに足をかけたりする状態が度々あったため、車椅子での生活時間を長くし、徐々に座位保持安定に向けて援助していくこと、車椅子からベッドへの移乗時、2、3 歩介助して歩くこと、筋力増強に対してのケアプラン作成した。

活動性もあったため、精神安定を図り、暴言や暴力行為の減少のためにオムツ外しに組み組んだ。

### 2 取り組みを行った成果

平成 14 年 12 月現在、要介護度 4 であるが、日中トイレ誘導を行い夜間のみオムツを使用中。以前は尿意、便意はなかった状態であったが、今は日中ほとんど失禁することはない。誘導しようとしても排尿間隔が短いときには「今は出ないから行かない。」等の発言があり、徐々に本来の姿を取り戻しつつある。

夜間においてもおむつの必要のない生活ができてきた。移動は車椅子介助をしていたが、本人自らが車椅子駆動を始め、今では自由に移動を行うことができています。

不穏状態は今でもあるが以前と比べるとテーブルを叩く時間、回数も減少し、暴力行為はほとんどなくなった。

暴言は時々見受けられるが、他の入居者に影響を与えるほどのものではなくなった。レクリエーション等のグループでのゲームには参加されることはないが、終始笑顔で右手を拍子を取ったりする表情が見受けられ、精神的に安定してきている。

### 3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

トイレ誘導することにより、トイレでの排泄にて精神的なストレスから開放されたので、暴力・暴言が減少したのではないかと考える。

現在、2 人介助にて誘導排泄を行うが、立位訓練を行い、補助バーを持って排泄介助ができるよう取り組んでいきたい。